



<ラムサール通信>

2017年10月1日発行 第185号

●アジア湿地シンポジウム2017(佐賀) プログラム決定、11月7日～開催●
ラムサール条約事務局長マルタさん来日し、基調講演／10セッション140発表

2017年11月7～11日、佐賀県佐賀市で開催される「第8回アジア湿地シンポジウム2017～湿地と持続可能な暮らし」のプログラムが決定し、準備が順調に進んでいます。基調講演に、ラムサール条約事務局初の女性局長マルタ・ロハス・ウレーゴさんの来日が決まり、ラムサールセンター(RCJ)初代会長磯崎博司さんのAWS25年を検証する講演もあります。事前登録9月末現在230人を数え、ほぼ半数が海外からの参加者となっています。第3回お知らせを同封します。

ただいま事前登録受付中です。<http://aws2017.org/jp/registration.html> から、どうぞ。オンラインでの事前登録受付は10月23日で締め切ります。当日会場での参加登録は可能です。全国から多くのみなさんの参加をよびかけます。開催中のボランティアのご協力も歓迎します。

●ラムサールセンター第27回総会開催●
COP13(ドバイ)に向けてAWSの成功に全力投入／WIJに会員参加を決定

6月11日(日)、ラムサールセンター(RCJ)第27回総会が法政大学(東京・市ヶ谷)で開催され、活動報告と方針を討議、決定しました。今年度は、来年のラムサールCOP13(UAE・ドバイ)を目標に、11月の「アジア湿地シンポジウム佐賀(AWS2017)」を最大目標に活動し、組織問題では、日本国際湿地保全連合(WIJ)に会員参加し、連携していくことが決まりました。なお、事務局が移転しましたので後述します。出席は、安藤元一、磯崎博司、藤倉良、武者孝幸、岩間徹、林聡彦、亀山保、岩崎慎平、藤岡比左志、中村玲子、前川公彦、苑原俊明、田辺篤志、佐藤湧馬、日田琥珀、尾崎友紀、大原みさと、北本健人、平井朗、名執芳博、長倉恵美子、白石拓也、芝原弥加、新井雄喜、佐々木優、James McGill、小松潔、小山文大さんでした(含む非会員)。以下、報告します。

※

[I] 2016年度(2016年4月～2017年3月)の活動報告

COP12で採択のラムサール条約「戦略計画2016～24」は、①湿地の劣化・減少対策強化、②登録湿地ネットワーク構築、③賢明な利用促進、④条約実施の強化を掲げ、CEPA(Cにキャパシティビルディングを追加)を重視。RCJはこの方針を支持し、「AWS2017」の準備、ラムサールシンポ中海・宍道湖の実施を中心に、WIJなどと連携して活動してきました。

1 「第8回アジア湿地シンポジウムAWS2017」の開催準備

昨年総会後、実行委員会と現地実行委員会を組織して準備を進めました。

2016.5月 RCJ、WIJ、日本湿地学会(JAWS)で準備会議。佐賀市を候補地として確認。

6月 バンコクの「ベンガル湾岸湿地ネットワーク会議」でアジアメンバーと準備会合。

8月 環境省、RCJ、WIJ、JAWSで実行委員会を発足。WIJに事務局。

10月 佐賀県、佐賀市、鹿島市、荒尾市、九州大学などで現地実行委を発足。九大に事務局。

12月 AWS2017のHP開設。第1回広報開始。

2017.1月 実行委事務局会合でプログラム・スケジュール案を作成。

2月 実行委・現地実行委事務局会合／韓国・順天の条約東アジア地域事務所（RRCEA）でアジアメンバーの国際運営委員会（ISC）開催。

4月 論文募集開始／6月 参加登録開始／7月 第2回ISCを佐賀で開催。

2 「ラムサールシンポジウム 2016 in 中海・宍道湖」の開催

2016年4月にRCJ、WIJ、JAWS、環境省、鳥取県、島根県、中海・宍道湖・大山圏域市長会などと実行委員会を組織。8月27～29日、米子市で開催。ラムサールシンポ新潟1996から20年が経過し、登録湿地が13から50に増え、条約への理解、賢明な利用、参加も進んだが、新たな課題も浮上。改めて全国規模でレビューする目的で開催。初日320人が参加。「湿地をとりまく状況はどう変わったか／地域にどう役立てるか／管理に携わる人々の活動を強化するには」をテーマに37事例、23のポスター発表があり、成果を『ラムサールシンポジウム2016報告書』にまとめました。

3 「インド洋ベンガル湾沿岸諸国の湿地協力国際ネットワークの構築」（KNCF助成事業）

経団連助成で、地域住民の気候変動適応、防災、生物多様性保全のキャパビルをめざす国際プロジェクトの1年目。8月にバンコクで国際シンポを開催。アジア各国、RRCEA、九州大などから専門家が参加。その後、このコンセプトを発展させ、KNCF25周年特別助成に応募も不採択でした。12月にインド・チリカ湖、2017年1月にミャンマー・ウトゥ村ほか）、3月にバングラデシュ・テフナフへ調査団を派遣しました。テフナフはロヒンギャ問題の隣接地です。

4 アジアにおけるRCJの主体事業

①「インド国ベンガル湾沿岸村落、持続可能な生活林再生事業」（トヨタ環境活動助成）：C/PはNGOのパリシュリで12月に調査団を現地派遣し、2年計画を終了。

②「バングラデシュ国モヘシュカリ島における学校・モスク施設主導による生態系アプローチに沿った住民参加型植林」（国土緑化推進機構緑の募金支援）：C/Pはバングラデシュポーシュで2017年3月に調査団を現地派遣。

③「ミャンマー国ウトゥ村での住民参加の持続可能なマングローブ生活林づくり」（トヨタ環境活動助成）：C/Pはミャンマー森林協会で2年計画。2017年1月に第1回調査団を現地派遣。

5 国内における主な活動 *例年どおりの活動に取り組みました。

・環境省エコライフフェア2016「湿地の恵み展」：6月4～5日、代々木公園にWIJ、登録湿地関係市町村会議、ユースラムサールジャパンとブース出展。関係自治体やユース参加で盛況。

・ラムサール条約登録湿地関係市町村会議：7月7～8日、名古屋市主催で藤前干潟の視察、講演会、交流会などで例年以上の参加でした。次の会長は宮城県大崎市に引き継がれました。

・登録湿地の現地調査：7月9日に涸沼（茨城）、10日に芳ヶ平湿地群（群馬）で登録50湿地の現地調査を完了。この他に中海、蘭牟田池、琵琶湖、釧路湿原、蕪栗沼、クッチャロ湖なども。

・KODOMO ラムサール湿地交流in浜頓別：8月5～7日、北海道クッチャロ湖で地元とRCJ、WIJの共催で11登録湿地32人の子どもが参加。漁協や農協と「協働取組」モデル事業でした。

・日本湿地学会「島根大学」：8月27～28日、ラムサールシンポ中海・宍道湖とジョインで開催。

・環境デー名古屋：9月17日、名古屋・大通公園にブース出展。藤前干潟を守る会などと協力。

・佐潟ラムサール20周年記念シンポジウム：11月13日、新潟市で開催。事務局長が参加。

・漫湖・国場川水あしび：11月26日、環境省、那覇市など主催の清掃イベントに参加。

6 その他の主な活動

・湿地保全のための東アジアユース会議in安山：7月25～30日、韓国安山市のシワ湖で開催された国際交流会議。谷津干潟、藤前干潟、東よか干潟、蕪栗沼から応募したユース11人を引率。韓国、中国、ミャンマー、カンボジア5か国参加の盛大なイベントでした。

・IUCN コングレス：9月1～9日、ハワイ。IUCNの4年に1度の世界大会に安藤会長、事務局長が参加。

・INTECOL・WETLAND：9月12～17日、中国・常熟市。安藤会長が参加／同会議のサテライト会議のアジ

ア湿地会議 2016 in台北には事務局長を派遣。

・KNCF プロジェクト地視察ミッション協力： 10月3～5日、経団連自然保護協議会のミャンマー・モイ
ンジー湿地視察に現地C/OのBANACAと協力。

・中国「湿地の学校in青島」： 11月29～2日、WIJ 中国が中国全土で展開する湿地環境教育プログラム「湿
地の学校」にWIJと参加。青島の都市湿地、再開発の整備を視察しました。

・バングラデシュポーシュ活動支援： 「テクナフ半島の住民によるベンガル湾の生物多様性保全のため
の『責任ある漁業』の推進」事業を地球環境基金代理人（岩崎慎平副会長）で協力。2017年3月に事務局長
ほか現地視察。

7 RCJの基本活動

設立以来重視してきた<ワイズユース>ワークショップは、今年度は12月29日の第100回目をWIJの
「WET. CAFE」と共催しただけでした。一方で、ユースラムサール（YRJ）の設立と活動支援、桜美林大学生、
日本大学生のボランティア受け入れなどの人材育成には成果をあげることができました。

8 組織体制 *以下の体制で実施されました。

会長 安藤元一（ヤマザキ学園大）／副会長 磯崎博司（上智大）、岩間徹（西南学院大）、藤倉良
（法政大）、武者孝幸（編集者）、林聡彦（コンサルタント）、亀山保（メディアプロデューサー）、
岩崎慎平（福岡女子大）／監事 藤岡比左志（出版社代表）／事務局長 中村玲子（ライター）

〔Ⅱ〕2016年度（2016年4月～2017年3月）決算報告 *別紙参照

〔Ⅲ〕2017年度（2017年4月～2018年3月）活動計画

2017年度は第9期中期計画の3年目で、2018年10月のラムサール条約締約国会議（COP13、UAE・ドバイ）
への貢献をめざして活動します。最大の目標は、11月7～11日、佐賀市で開催する「アジア湿地シンポジウ
ム（AWS2017）」です。それに先立ち、2つの組織問題を討議、決定しました。

1 日本国際湿地保全連合（WIJ）への組織（会員）参加

ここ数年、RCJはKODOMO ラムサール、ラムサールシンポ2016、AWS2017など主活動をWIJと連携、協力し
てきました。両組織は「ラムサール条約と湿地・生物多様性」をテーマに目標、戦略が同じだからです。故
辻井達一会長の時代に、何度か「WIJ 会員に」と打診されましたが棚上げしてきました。しかし協力関係が進
み、任意団体のRCJの将来も考えて参加が提案され、「WIJ 定款」を資料に、総会で正式に議論され、承認さ
れました。2017年9月、加入申請が済みました。

2 事務局の移転

大田区南久が原の中村玲子さん宅の転居にともない、会員の大村弥加さんの旅行代理店「メープル・ツア
ーズ」内に移転します。大村さん、よろしくお願いします。

ラムサールセンター事務局

〒153-0063 東京都目黒区目黒2-3-1-101 メープル・ツアーズ内

TEL&FAX 03-3792-5513／メール・URL は同じです

3 「第8回アジア湿地シンポジウム AWS2017」の開催

プログラムが決まり、準備は順調に進み、参加登録も9月30日現在230人（海外90人）となりました。
1992年大津・釧路からマレーシア、インド、ベトナム、中国、カンボジアと巡回して25年目、四半世紀のア
ジアの歩みを「湿地と持続可能な暮らし」をテーマに議論します。「第3回お知らせ」を同封します。11月
7～11日、会員のみなさん佐賀にお集まりください。

4 「インド洋ベンガル湾岸諸国の湿地協力国際ネットワークの構築」（KNCF 助成事業）

2年目活動で400万円助成。ネットワーク参加のNGOのキャパシティビルディングを重点に活動します。
AWSへの参加とインドでの国際研修、スリランカの調査などを計画中で、RRC-EA や九州大学などの専門家の
協力を得て進めます。

5 アジアにおけるRCJの主体事業

①「バングラデシュ国モヘシュカリ島における学校・モスク施設主導による生態系アプローチに沿った住
民参加型植林」（国土緑化推進機構緑の募金支援）： 3年目。140万円助成で続けます。

②「ミャンマー国ウトオ村での住民参加の持続可能なマングローブ生活林づくり」（トヨタ環境活動助成）：2年計画の総額 699 万円事業。アジア会員やインテムコンサルティングの協力で進めます。

6 国内おける主な事業

- ・環境省エコライフフェア 2016「湿地の恵み展」： 例年どおり実施済です。
- ・ラムサール条約登録湿地関係市町村会議： 10 月に宮城県大崎市で開催予定で、参加します。
- ・KODOMO ラムサール湿地交流in鶴居村： 8 月に実施済です。＊別項参照。

7 その他の主な活動

前年度同様、各種 CEPA を中心とした要請活動にはできるかぎり応えていく予定です。

8 RCJ の基本活動

開催回数の減った＜ワイズユース＞ワークショップ、フィールドワークショップは WIJ との連携で時宜に適合した内容で開催を検討します。

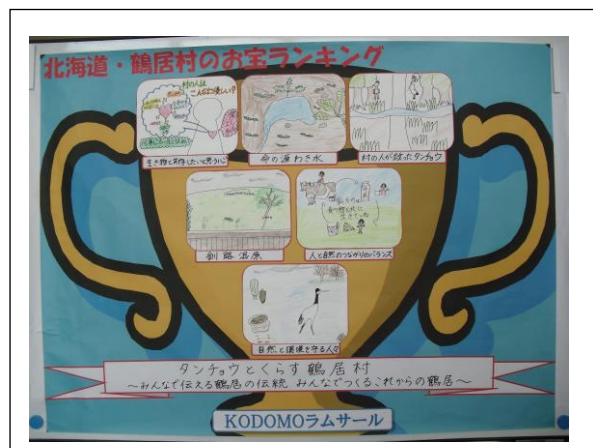
9 組織 ＊昨年度の体制を継続します。

- ・会員数は現在 111 人（国際会員 20 人）です。
- ・会長人事について安藤会長から交代の申し出があり、来年度以降、岩崎慎平副会長を軸に調整することが確認されました。

●開村 80 周年記念「KODOMO ラムサール in 鶴居村」開催●

タンチョウコミュニティ（音成代表）を中心に、村、各セクターが参加・協力で大成功

2017年8月4～6日、北海道・鶴居村で「KODOMOラムサールin鶴居村」が開催されました。日本の第1号ラムサール条約登録湿地「釧路湿原」の北西部に位置する鶴居村は、なだらかな丘陵地帯に広大な牧草地と森林を抱える酪農の村。今年は開村80周年さらに釧路湿原国立公園指定30周年と節目の年にあたり、記念行事として開催されたもの。地元鶴居村からの9人をはじめ、サロベツ原野、クッチャロ湖、濤沸湖、厚岸湖・別寒辺牛湿原、霧多布湿原、蕪栗沼・周辺水田、化女沼、藤前干潟、琵琶湖、くじゅう坊ガツル・タデ原湿原、東よか干潟、屋久島永田浜、久米島の溪流・湿地から36人が集まりました。村の教育委員会、酪農家、森林組合、商工会、観光協会などで構成した実行委員会のみなさんが数か月かけて準備したプログラムに沿っての2泊3日の鶴居村の宝さがしは、天候にも恵まれて大成功。最終日に完成したポスターは、大石正行村長に手渡されました。



●経団連自然保護基金 25 周年記念特別基金助成事業、応募と不採択の報告●

1992 年、リオサミットを契機に設立された経団連自然保護基金が、2016 年で 25 周年を迎え、「25 周年記念特別基金助成事業」の公募をおこないました。持続的社会的な実現に向けて、国際的な重要課題である「愛知目標」および「SDGs」の達成に効果的な「人材育成」や「有益な情報の共有促進」の活動への助成で、2017～19 年の 3 年計画事業 1 件に対して助成額 1 億 5000 万という大型助成。2017 年 1 月 5 日公募、2 月 28 日締め切りというあわただしいスケジュールでしたが、RCJ は後述の案件で応募しました。全体で 27 か国 55 件の応募がありました。

RCJ では、現在進行中の「インド洋ベンガル湾岸諸国の湿地協力国際ネットワークの構築」(KNCF 助成)のコンセプトを発展させ、RCJ を代表団体に、九州大学流域システム工学研究室、インテムコンサルティング、ベンガル湾岸諸国の NGO (パリシュリ、バングラデシュポーシュ、BANCA、ミャンマー森林協会) とで「ベンガル湾と生物多様性コンソーシアム」を構成し、「ベンガル湾と生物多様性プロジェクト：沿岸域の生物多様性保全とコミュニティ強靱化のための人材育成」事業を立案して助成を申請しました。

第一次選考通過 (3 月 22 日に公表) の 14 件には残りましたが、最終選考では不採択となりました。

採択されたプロジェクトは、日本環境教育フォーラムを代表団体に、コンサベーション・インターナショナル・ジャパン、バードライフ・インターナショナル東京で構成した「広げよう、つなごう SATO YAMA UMI グループ」の事業「アジア太平洋地域生物多様性保全にかかる次世代人材育成事業 - SATO YAMA UMI プロジェクト」で、ブータン、カンボジア、インドネシア、ニューカレドニア、サモア、ベトナムの 6 カ国・地域で、アジア太平洋地域生物多様性保全にかかる次世代の人材育成ならびに教材の開発をおこなっていくというものでした。選考プロセスなどの詳細は以下にあります。

<https://www.keidanren.net/kncf/secretariat/activityreport/detail/278.html>

今回、採択は逃しましたが、助成金応募までの作業を通じ、コンソーシアムを構成した九州大学流域システム工学研究室、インテムコンサルティング、パリシュリ、バングラデシュポーシュ、BANCA、ミャンマー森林協会のみなさんの熱意あるご協力に心からの感謝の意を表します。

●会費納入のお願い●

2017 年度の会費 (8000 円) を受け付けています。ご協力をお願いします。振り込み先は以下です。

＜郵貯銀行口座＞

郵便局からの場合 口座番号：10130-51577221 名義：ラムサールセンター

他の金融機関からの場合 口座番号：店名〇一八 (読みゼロイチハチ)

店番 018 普通預金 口座番号 5157722

＜銀行振込口座＞

三井住友銀行 下丸子支店 (しもまるこ) 店番号 810 (普通) 0684084

名義：ラムサールセンター事務局長 中村玲子

※郵便振替口座は閉鎖しました。

ラムサールセンター事務局は引っ越しました

新住所：〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-3-1-101 メープル・ツアーズ内

TEL&FAX: 03-3792-5513

メール: ramsarcj.nakamura@nifty.com

URL: <http://rcj.o.oo7.jp/>